実績評価書

資料1-1

(厚生労働省24(I-5-2))

<p>施策目標名</p>	<p>治療方法が確立していない特殊の疾病等の予防・治療等を充実させること(施策目標 I-5-2)</p>						
<p>施策の概要</p>	<p>本施策は、次の施策小目標を柱に実施しています。 (施策小目標1) 難病対策を推進すること (施策小目標2) ハンセン病対策を推進すること (施策小目標3) エイズ対策を推進すること</p>						
<p>施策の背景・枠組み (根拠法令、政府決定、 関連計画等)</p>	<p>○難病対策については、昭和47年10月の「難病対策要綱」を踏まえ、(1)原因が不明であって、治療方法が未確立であり、かつ後遺症を残すおそれが少なくない疾患、(2)経過が慢性にわたり、単に経済的な問題のみならず介護等に著しく人手を要するために家族の負担が重く、また精神的にも負担が大きい疾病に対し、</p> <p>①調査研究の推進 ②医療施設等の整備 ③医療費の自己負担の軽減 ④地域における保健医療福祉の充実・連携 ⑤QOLの向上を目指した福祉施策の推進 の各種施策を推進しています。</p> <p>○ハンセン病対策については、「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」、ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律(平成13年法律第63号)前文及び第11条並びにハンセン病問題の解決の促進に関する法律(平成20年法律第82号)前文及び第18条に基づき、国は、ハンセン病及びハンセン病対策の歴史に関する知識の普及啓発による偏見・差別の解消、患者・元患者の名誉回復等を図ることとされています。</p> <p>○エイズ対策については、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(平成24年厚生労働省告示第21号。以下「エイズ予防指針」という。)において、エイズの発生の予防及びまん延の防止を図るため、国、地方公共団体、医療関係者及びNGO等が連携して、</p> <p>①エイズに関する正しい知識の普及啓発及び教育 ②保健所等における検査・相談体制の充実 ③患者等に対する人権を尊重した良質かつ適切な医療の提供 等の施策を行うこととされています。</p>						
<p>予算書との関係 ・関連税制</p>	<p>本施策は、予算書の以下の項に対応しています。 (項)感染症対策費 [平成24年度予算額:2.7億円] (大事項)感染症予防事業等に必要経費(一部) (項)特定疾患等対策費(全部) [平成24年度予算額:413億円] (大事項)特定疾患等対策に必要な経費 (大事項)特定疾患の治療研究に必要な経費 (大事項)特定疾患等の予防・治療等の充実に必要な経費</p>						
<p>施策の予算額・執行額等 ※「執行額」欄には、独法の 運営費交付金は含まない。</p>	<p>区分</p>	<p>21年度</p>	<p>22年度</p>	<p>23年度</p>	<p>24年度</p>	<p>25年度</p>	<p>26年度要求額</p>
<p>予算の 状況 (千円)</p>	<p>当初予算(a)</p>	<p>30,682,979</p>	<p>34,819,129</p>	<p>34,832,742</p>	<p>41,708,853</p>	<p>46,203,060</p>	<p>精査中</p>
	<p>補正予算(b)</p>	<p>2,836,063</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	
	<p>繰越し等(c)</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>-47,110</p>	<p>-155,690</p>	<p>202800</p>	
	<p>合計(a+b+c)</p>	<p>33,519,042</p>	<p>34,819,129</p>	<p>34,785,632</p>	<p>41,553,163</p>	<p>46,405,860</p>	<p>精査中</p>
	<p>執行額(千円、d)</p>	<p>32,046,804</p>	<p>32,444,374</p>	<p>33,697,874</p>	<p>40,922,579</p>		
	<p>執行率(%、d/(a+b+c))</p>	<p>96%</p>	<p>93%</p>	<p>97%</p>	<p>98%</p>		
<p>施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)</p>	<p>施政方針演説等の名称</p> <p>—</p>	<p>年月日</p> <p>—</p>	<p>関係部分(概要・記載箇所)</p> <p>—</p>				

測定指標	指標1	基準値	実績値					目標値
	衛生行政報告例による特定疾患治療研究事業の受給者証交付件数	22年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	—
		706,720	647,604	679,335	706,720	778,178	集計中	前年度以上
	年度ごとの目標値	—	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	—
指標2	基準値	実績値					目標値	
ハンセン病資料館事業実施状況報告によるハンセン病資料館の入館者数	22年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	—	
	22,515	23,044	21,881	22,515	22,441	24,957	前年度以上	
年度ごとの目標値	—	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	—	
指標3	基準値	実績値					目標値	
疾病対策課調べによる保健所等におけるHIV抗体検査件数(前年以上/毎年)	23年	20年	21年	22年	23年	24年	—	
	131,243	177,156	150,252	130,930	131,243	131,235	前年以上	
年度ごとの目標値	—	前年以上	前年以上	前年以上	前年以上	前年以上	—	
【参考指標】	実績値							
	—	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	—	
	—	—	—	—	—	—	—	

評価結果と今後の方向性	有効性の評価	<p>○難病対策 指標1の特定疾患治療研究事業(難病の医療費助成)の受給者証交付件数については、医療の進歩によりこれまでよりも長く生きられる患者が増加しているため増加傾向にあり、助成が必要な患者に対し、漏れなく適切に助成を行っています。</p> <p>○ハンセン病対策 指標2のハンセン病資料館の入館者数については、パンフレットの配布など各種広報活動や小中学校・看護学校等に対する団体誘致活動により、平成24年度の入館者数は過去最大となりました。これにより、ハンセン病に関する知識の普及啓発を一層推進することができたと考えます。</p> <p>○エイズ対策 指標3の保健所等におけるHIV抗体検査件数はやや減少傾向にあります。要因としては、国民の関心が低下していること、差別・偏見により検査を受けづらいこと、日時や場所の利便性の問題などが考えられます。これについては、キャンペーン活動などの普及啓発事業、エイズ罹患率の高い同性愛者等向けのコミュニティセンターの設置、HIV検査・相談室の整備に対する補助事業により、検査件数の向上に取り組んできました。</p>
	効率性の評価	<p>○難病対策 指標1については、助成が必要な者に漏れなく適切な助成を行えるよう、各都道府県において迅速かつ正確な審査を行っていただいています。</p> <p>○ハンセン病対策 指標2については、入館者の増加を図るために、小中学校・看護学校等に対する団体誘致活動に力を入れており、コストをかけずに事業を実施できていると考えられます。また、ハンセン病の知識に関する広報活動においても、HPを充実させるなど安価な手段での普及啓発に取り組んでおり、効率的に実施できていると考えます。</p> <p>○エイズ対策 指標3については、検査件数が減少しているにもかかわらず、事業費が増加しており、その背景としては、夜間・休日等の利便性に配慮した検査体制を整備することによる人件費や委託費の増加が考えられます。平成24年度の行政事業レビュー公開プロセスでは、罹患率の高い地域や同性愛者等に重点化すべきとの御指摘や、検査の実施体制や人員配置を見直してコストを削減すべきとの御指摘がありました。</p>

	<p>評価の総括 (現状分析(施策の必要性の評価)と今後の方向性)</p>	<p>○難病対策について 【現状分析】 特定疾患治療研究事業の受給者は増加傾向にあり、助成が必要な患者に対し、漏れなく適切に助成を行っています。 【今後の方向性】 難病対策については厚生科学審議会疾病対策部会難病対策委員会で見直しを検討しており、同委員会の提言では、医療費助成について、広く国民の理解を得られる公平かつ安定的な医療費助成の仕組みを構築することとされています。また、総務大臣・財務大臣・厚生労働大臣により、「特定疾患治療研究事業については、平成26年度予算において超過負担の解消を実現すべく、法制化その他必要な措置について調整を進めること」が合意されています。これらを踏まえ、今後も引き続きその具体的な内容について検討を行い、法制化その他必要な措置について調整を進めます。</p> <p>○ハンセン病対策について 【現状分析】 ハンセン病資料館の入館者は、平成20年度からほぼ横ばいとなっていました。各種広報活動や団体誘致活動により、平成24年度の入館者数は過去最大となりました。 【今後の方向性】 資料館の入館者を増加させることはもとより、今後も引き続き、外部での語り部活動や講演会など資料館以外の手段によるハンセン病に対する理解を深めるための活動を行います。</p> <p>○エイズ対策について 【現状分析】 HIV抗体検査の件数はやや減少傾向にありますが、各種普及啓発事業により、検査件数の向上に取り組んでいます。また、事業の効率性については、検査件数が減少しているにもかかわらず事業費が増加しており、改善すべき点があると考えています。 【今後の方向性】 平成25年度から、①新規HIV感染者・エイズ患者の多い地域を重点都道府県等とし、同性愛者等の罹患率の高い者の利便性に配慮した検査を実施するとともに、②都道府県等への補助の単価を、検査の実施形態やスタッフの職種、検査の件数ごとに設定することで、効率的・効果的な検査を行うこととしています。</p>
--	---	---

<p>評価結果の政策への反映の方向性</p>	<p>予算について</p>	
	<p>税制改正要望について</p>	
	<p>機構・定員について</p>	

<p>学識経験を有する者の知見の活用</p>	
------------------------	--

<p>参考・関連資料等</p>	<p>○ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話 URL:http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/hansen/hourei/4.html</p> <p>○ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律、ハンセン病問題の解決の促進に関する法律、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(下記検索サイトから検索できます) URL:http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/html/hourei/search1.html</p> <p>○平成24年度行政事業レビューの公開プロセス(第2日目に「保健所等におけるHIV検査・相談事業」があります。) URL:http://www.mhlw.go.jp/jigyoshiwake/h24_gyousei_review.html</p>
-----------------	--

<p>担当部局名</p>	<p>健康局</p>	<p>作成責任者名</p>	<p>疾病対策課長 田原克志</p>	<p>政策評価実施時期</p>	<p>平成25年7月</p>
--------------	------------	---------------	------------------------	-----------------	----------------